

# 港北区災害ボランティア連絡会ニュース

事務局 〒222-0032 横浜市港北区大豆戸 13-1 吉田ビル 206 港北区社会福祉協議会

第11号

TEL 045-547-2324 FAX045-531-9561 E-mail info@kouhoku-saibora.net

2013年8月

HP <http://www.kouhoku-saibora.net/>

\*入会は随時受け付けています。あなたの町の防災度を高めるためにお力を貸してください。

## 港北区歯科医師会会長に聞くー災害時の口腔衛生ー

昨年度港北災害ボランティア連絡会に寄付をしてくださった港北区歯科医師会の沖倉新会長に歯科医師会としての災害時対応や発災時の歯科医師会の動きなどについてお話を伺いました。日吉本町の静かな住宅地に開院しているおきくら歯科医院、3.11では大きな揺れを感じタイルも剥がれたそうです。患者さんもいらしてスタッフで必死に支えたそうです。ではもっと大きな災害に襲われた場合歯科医師会はどのように動くのでしょうか。

○震度6以上の地震で医師は近隣の防災拠点に向かう。区内23カ所の地域防災拠点は医療拠点となり、三師会で協同し、区医師会はトリアージに基づき応急処置を、歯科医師会は口腔関連の傷害の応急処置を行う。そのため地域保健委員会で災害対応を検討しており、区、市の指針+αで対策を立てている。各歯科医院には持ち出し用ユニットが配備されており、いざという時はそれを持って拠点に向かう。

○毎年10月にトリアージを含む訓練を行っており、行政との連絡会も年2回行い、対応策の共有化を図っている。

○避難所での口腔衛生確保のため大倉山の歯科医師会事務所に歯ブラシを大量に保管しているが、輸送等の事を考えると拠点にあるのが望ましく、今後提言したい。



○災害時は入れ歯の確保が最重要課題と考えている。そのためには寝るときどこに置くかを考える事が大切。歯茎を休めるためには必ずなら揺れで跳ばされない工夫が必要だ。

○自宅は半地下で作っているため揺れには強い筈で、地下室にカセットボンベをはじめとした備蓄品を備えている。住まいのある日吉西町会は約600世帯あり防災意識も高いのだが、避難所の体育館は400名しか入れない。町内会できちんと対策を講じなければならない。

などご自宅や町内会の防災対策まで多岐にわたるお話が伺えました。避難用品に歯ブラシは盲点だと感じました。皆さんもぜひ一人一本の歯ブラシを緊急持ち出し袋に加えるようにしましょう。(宇田川)

避難所生活などでハブラシがない場合は、食後に15cc程度の水やお茶でしっかりうがいをしましょう。またハンカチなどを指に巻いて歯を拭き、汚れをとるのも効果があります。綿棒でも良いでしょう。液体歯磨きがあるとより効果的です。ガムを咬むのも効果的です。(口腔ケア学会災害時の口腔ケア)

### 9月18日 浦安市災害対策見学ツアー

3・11で広範囲に液状化被害が起きた浦安市、港北区でも小机で被害が生じており、人ごとではありません。 集合9時 解散16時予定  
参加費2000円(昼食代、バス代、ほか)

## 第4回定例会報告

平成25年7月17日(水) AM10:00～  
港北区福祉保健活動拠点多目的研修室

出席者：白井副会長、富士塚ボランティアグループ、国際救急法研究所、手話サークルあじさいの会、子育て支援拠点どろっぷ、港北手話サークル梅の会、仲手原マザークラブ、個人会員7名、井上、山本、(区社協) 司会=白井副会長 記録=和田 合計 18名

各タスクに分かれて討議をした。

### ☆イベントタスクク

- ・3、11で液状化被害がひどかった浦安市の見学。発災した時の状況、コーディネーター、ボランティア支援の実態等を詳細に聞きたい
- ・往復の車中は有効活用する
- ・広く広報し大勢の参加を図る。

### ☆シミュレーションタスク

1. 昨年のシミュレーションの問題点を踏まえた災害ボランティアセンターの訓練を11月29日に行う
    - ・シミュレーション状況、被害想定、インフラの回復状況の確認
    - ・シミュレーションは、ボラセンのコーディネーターとしての練習をする。
  2. シミュレーション被害想定の内容共有  
横浜市地震被害想定調査報告書より港北区の被害を抜粋して確認しあう
  3. ライフラインの復旧状況確認内容の共有
    - ・最初の3日間は、道路復旧
    - ・その後、電気、電話、ガス、水道の復旧となる
    - ・電車：変電所、線路わきの家に火事があると復旧が遅くなる
    - ・道路：緊急交通路は、緊急車両、ライフラインの復旧車両、復旧のため車両
- ※ボランティアの車両が復旧のための車両と

なるかは不明確

災害派遣車両証明書があれば、ボランティアも通れるのではないかと

### 4. 今後の計画

- ①チラシを決定⇒申し込み開始 (HP)
- ②県の広報へ案内を出す
- ③シミュレーション内容の検討
  - ・ボラセンとは何かを伝える
  - ・ボラセンの一日を伝える
  - ・地震のシミュレーションの目黒巻
  - ・ニーズ受付
  - ・ボラセンの送り出し、フォロー
- ④防災計画を確認し、災害ボランティア連絡会の作業範囲を明確化する

### ☆PRタスク

- ・拠点運営に関わっているスタッフからの情報をもとに防災拠点の訓練時に積極的なPR活動を行う。そのため
- ①パンフレットを改訂する。
  - ②会員申し込み書の形式を整理する。
  - ③会員登録手続きの流れを明確化する
  - ④既存パネルの活用
- 会の案内、日常活動、日頃の備え、区内被害想定、区内防災マップ、の5枚を作る

## HP リニューアルしました

—載せたい情報お寄せください—



HP (<http://www.kouhoku-saibora.net/>)

のリニューアルも一段落して、twitter も始

めました。皆さんフォローしてくださいね。  
アカウントは @kouhoku\_saibora です。

リニューアルした HP での掲載内容は[東日本大震災関連ニュース](#)、各地域の災害ボランティアセンターへのリンク、[防災マップ](#)、[避難場所一覧](#)、[『わが家の地震対策港北区版』](#)、[港北区の防災計画](#)、イベントニュース、過去の連絡会ニュース、「いざ」という時、等です。

今後も色々な情報の掲載やリンクを増やしていきますので、小まめにチェックしていただければ幸いです。また、掲載して欲しい内容がありましたら「お問い合わせ (info@kouhoku-saibora.net)」へご連絡ください。

(HP 担当 野田)

HP は更新してこそ価値が出ます。意味があります。古い情報しか載らない HP にしないため担当も頑張りますが、もう一つの大きな狙い、会員の活動の様子を知らせるためにも利用して下さい。会員からの積極的な情報提供が HP や通信の質を高めていくのです。

---

## 障害者防災を考える

### —「逃げ遅れる人々」をめぐって— 災害時要援護者とは誰か

人は必ず年をとる、ということで災害時要援護者に高齢者を想定することは容易なことです。どのように対応すれば良いかも分かりやすいものです。これが障害者になるとちょっと難しくなります。身内に障害を持つ方がいない場合や日常生活で付き合いが無い場合どのような障害を思い起こすでしょうか。多くの場合車いす利用者ではないでしょうか。国際障害者年のキャンペーンに登場した障害者はほとんど車いす利用者でした。はっきりと歩行に困難を抱えていることが分かる上に意思疎通も可能

な方が大勢いるからだと思います。しかし世の中にはいろいろな障害を抱えた人がいます。外見からは分からない人もいます。意思疎通が難しい人もいます。話しが通じるようでも困難な状況下では混乱をしてしまう人もいます。また「健常者」でも災害時に負傷をして歩行困難になったり、自分一人では生活維持が難しくなる可能性もあります。災害時に要援護状態になることも十分可能性があるのです。世の中には様々な要援護者が存在するのです。でも多くの人々は日常的にそのような方と出会うことが少ないためになかなかそのような現実気が付かないのです。

### 障害者の死亡率の高さ

東日本大震災では 2013 年 3 月 31 日段階で死者 15882 名、行方不明者 2688 名が確認されています。(警察庁調べ) しかし被災地ごと、障害種別に調べてみると様々なことが見えてきます。まず被災地域全体での死亡率は 1.03% であるのに手帳を交付されている人の死亡率は 2.03% と 2 倍であること、しかも地域によっては大きく違うことが分かりました。今回一番被害がひどかった宮城県女川町では死亡率 7.01% に対して障害者は 13.88% であること、なおかつ肢体不自由者の死亡率は 18.45%、聴覚障害者は 22.5% に上がっていることが分かっています。(NHK しらべ) いかに障害が避難の際の困難点になっているかが分かります。だからこそそれぞれの特性に併せたきめ細かい事前対応策が必要になるのです。

### 日常のであいの大切さ

ではそういったきめ細かい対応を可能にする要因は何でしょうか。高齢者対策が容易に想像出来ることから分かるように、日常から付き合いがある、見聞きする機会がある、といった事につきると思います。障害者は特別な存在で

はありません。しかし日常生活で付き合いの機会が無い方も大勢いると思います。

港北区内では「ハンディを持つ人のミニフォーラム咲良」が一昨年の震災後にアンケートを取っています。災害がどのような影響を及ぼしたかを知る重要なデータです。

そこでは当日やその後の影響がいろいろまとめられています。(詳細は港北区地域作業所連絡会伊東さんまで) 困ったことも色々ありましたが、嬉しかった支援もまとめられており、参考になります。しかしあの程度の揺れでも恐怖のためその後外出が出来なくなった、などの例を読むと丁寧な対応が必要なが分かります。

### 外国人の方も困る

また新横浜にサッカー競技場があることや多くのホテルもある事からくる外国人対応も考えなければいけない問題です。

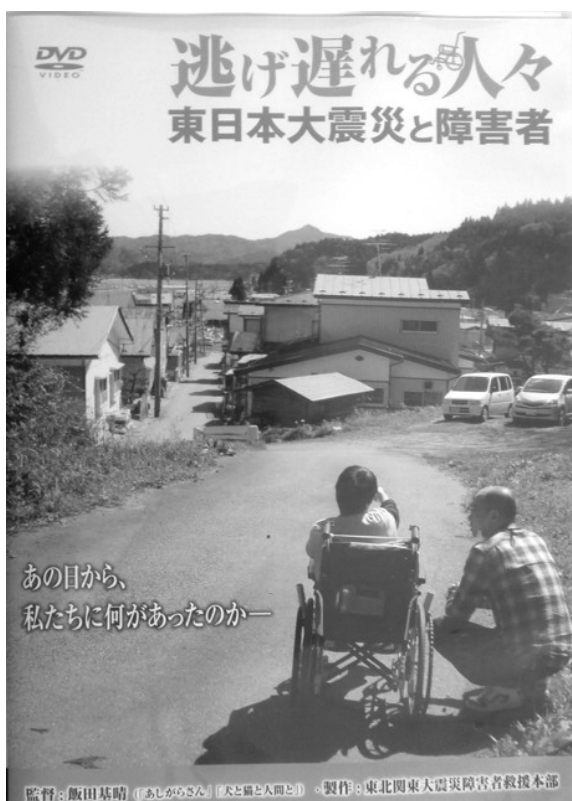
サッカーワールドカップなどでは世界中からファンが押し掛ける訳ですが、世界には地震を経験したことの無い人もいます。それらの人が感じる揺れる大地の怖さは、普段から地震慣れしている日本人には想像もできないほどのようです。それに加えて言葉が通じないとするとパニック状態にならないとも限りません。

要援護者対策は港北区災害ボランティア連絡会のメンバーみんな考えていく課題です。様々な団体が加入していることを強みとしていく必要があります。

### 映画「逃げ遅れる人々」

障害者の際立った死亡率の高さに驚いた当事者や支援団体がこの間注目している映画がこの「逃げ遅れる人々 東日本大震災と障害者」です。あの日被災地の障害者はどのような状態で逃げたのか、あるいは逃げられなかったのか。あの日から彼らの生活はどのように変わ

ったのか。それらに関係者の証言をもとにまとめた映画です。



### 港北でも上映会決定

各地で上映会が行われていますが、港北区でも今後上映されることが決まっています。会場は10月17日ラポール横浜、11月17日港北公会堂を予定しています。また地域の数十人単位のミニ上映会も可能です。多くの方に見ていただいて有効な対策を考えあうきっかけにしたいと思っています。

問い合わせ先 045-431-4070 宇田川まで

#### 編集後記

- ☆ 大きな余震がまた起きた宮城県、数年は余震が続くそうで、地元の方の恐怖やいかばかりかと思えます。(宇)
- ☆ 今年の夏は異常に暑いですね。野外で活動する時は熱中症に気をつけましょう (山本)
- ☆ 「こんなに降ったことがない」いほどの大雨の中、陸前高田にいました。道路の冠水、土砂の流失等があり、避難された皆さんの気持ちはどんなだったのでしょうか。(山口)
- ☆ 東北でも夏祭りが多く開催されております。観光で行くだけでも復興に繋がります。みなさん是非足を運んでみてください。(野)